



学校だより

# みどりの

- 考え伝え合う子
- 心豊かな子
- 元気な子
- やりぬく子

令和4年9月1日

## 夏の大きな成長をいかして

校長 遠藤 昌司

2学期が始まり、子ども達が家庭・地域から学校へ戻ってきました。新型コロナウイルスの感染は未だ収まらず、それに伴う制約もある中ではありましたが、3年ぶりの行動制限がない夏休みとなり、お出かけや親せきの方に会ったり、親子でゆっくり過ごしたりする機会となったのではないのでしょうか。大きな事故や怪我などはなかったようで、安心しているところです。

始業式の日には、各担任が子ども達を迎え入れましたが、「新たな気持ちで」という言葉と共に「お帰り」という投げかけが多くありました。長い休みの後は、子ども達が不安な気持ちになることもあり、十分な配慮が必要であると言われるようになっていきます。各担任も十分に意識していますので、ご心配な点がありましたら、遠慮なくご相談ください。

この夏もうだるような暑さの毎日でしたが、暦の上では既に秋となっており、心地よい風を感じるようにもなりました。過ぎ行く夏を象徴するかのよう、校地北側の教材園では、これまで太陽の光をいっぱい浴びて咲き誇っていたヒマワリが、その時期を終え、今はたくさん種を实らせ始めています。そうかと思えば、同じ教材園には5年生が理科学習で植えたヘチマがものすごい勢いで伸びています。ヘチマの蔓は驚くほど伸びることがありますが、教材園にとどまるどころか、近くのヒマラヤスギに巻き付いて、一番高いところでは校舎の3階と同じくらいまでになっており、植物の成長の力強さを感じます。たくさん咲いた黄色い花はヒマラヤスギを飾っているようにも見え、その様子から教頭先生は「クリスマスツリーのよう」と楽しんでいきます。花が落ちる前に、学校のそばを通りがかった際には、ぜひご覧ください。

昨年度の学校だよりでもお伝えしましたが、学校を離れたこのひと月ほどの期間は、子ども達の心と体の大きな成長の機会となったはずで、それは夏の植物の比ではないことでしょう。始業式の日には子ども達に向け、夏の間の成長を、学校生活の中でのやるべきことを考えられること（当事者意識）、人の立場が理解できること（相手意識）に繋げて欲しい旨を伝えました。学校は＜学びを支える当事者＞として、2学期も職員一丸となり、その役割を果たしてまいります。それぞれのご家庭には＜育ちを支える当事者＞として、地域の皆様には＜見守り支える当事者＞としての役割を引き続き担っていただき、＜成長し学ぶ当事者＞である子ども達を共に支えて行けるよう、ご協力をお願いいたします。